

## 救護活動や福祉活動の尊さを学ぶ

11月20日(金)、赤十字の使命や救護活動・福祉活動の尊さを学ぶことを目的に、東通村赤十字奉仕団と東通村青少年赤十字の交流会が開催されました。

東通村青少年赤十字からは東通小学校6年生の児童49名が参加し、東通村赤十字奉仕団の指導を受けながら炊き出し訓練を行いました。訓練では、ハイゼックスという特殊な袋に1人分のお米ときれいな水を入れ、大きな鍋で80人分の白米を炊きました。ハイゼックスは、袋の中に他の水が入らないように輪ゴムで特殊なくくり方をするので、児童たちは失敗しながら何度も挑戦し、一生懸命お米の準備をしました。

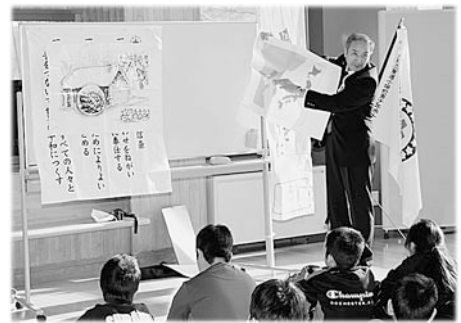
お米が炊き上がる間、児童たちは日本赤十字社青森県支部 指導講師の吉田寛(よしだひろし)先生の講演に耳を傾けました。講演では、赤十字のマークが持つ救護や保護の意味を学び、佐井村出身の三上剛太郎医師のエピソードを感慨深げに聞いていました。

※ 三上医師は、日露戦争でお手製の「赤十字旗」を掲げて負傷兵の手当に奔走し、後にこの赤十字旗は「世界の宝」と評されています。

そして、待ちに待ったお米の炊き上がり。児童たちが四苦八苦して準備したハイゼックスのお米は、1つも失敗することなく、見事に炊き上がりました。気になるのはその味。東通村赤十字奉仕団の特製のカレーと一緒に食べると、あちらこちらから「おいしい!」の声が上がりました。



頑丈なハイゼックスの袋にお米を詰めます。東通村赤十字奉仕団の皆さんが優しく丁寧に教えていました。



赤十字活動の大切さを学びました

### 赤十字活動資金にご協力ください ～平成28年度の社員増強・社資増収運動がはじまります～

日頃、赤十字活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

近年わが国では、毎年のように大規模な自然災害が発生しておりますが、昨年九月に発生した台風18号による大雨災害は、関東・東北の広範囲にわたり甚大な被害をもたらし、多くの尊い人命が失われました。

これら災害に対する最も重要な対策は、平時において防災の備えを万全に行うことであり、日本赤十字社青森県支部では、DMATチームの育成や救護資機材の整備などの災害救護体制の強化をはじめ、県内各地域の自主防災組織を対象に「防災セミナーインストラクター」の養成を行い、地域住民の防災意識の普及に努めております。

また、青森県支部では、不幸にも風水害や家屋火災などの被害に見舞われた県民の方々に対して、毛布などの救援物資の交付を行い、平成26年度の交付件数は354件に上っております。

これら災害救護活動の他にも、人命救助を目的とする救急法等講習会の普及、地域等で福祉活動を推進する赤十字奉仕団の育成や、子供たちの“やさしさと思いやり”の心を育む青少年赤十字の育成など多岐にわたる活動を行っており、これらは赤十字社員が納めて下さる社資(社費・寄付金)を財源に行われています。

日赤青森県支部では、平成28年2月1日より、平成28年度に実施する赤十字活動の資金確保のため、《赤十字社員増強・社資増収運動》を実施いたします。

日本赤十字社が果たすべき役割と《赤十字社員増強・社資増収運動》の主旨をご理解いただき、日赤青森県支部が行う赤十字活動の普及・推進のため、東通村の住民のみなさまの赤十字社員への加入ならびに平成28年度の社資(社費・寄付金)のご協力について、よろしくお願い申し上げます。

<お問合せ先> 日本赤十字社青森県支部 組織振興課

☎ 017-722-2011